



第2章

周南市の現状

1 人口等の動向

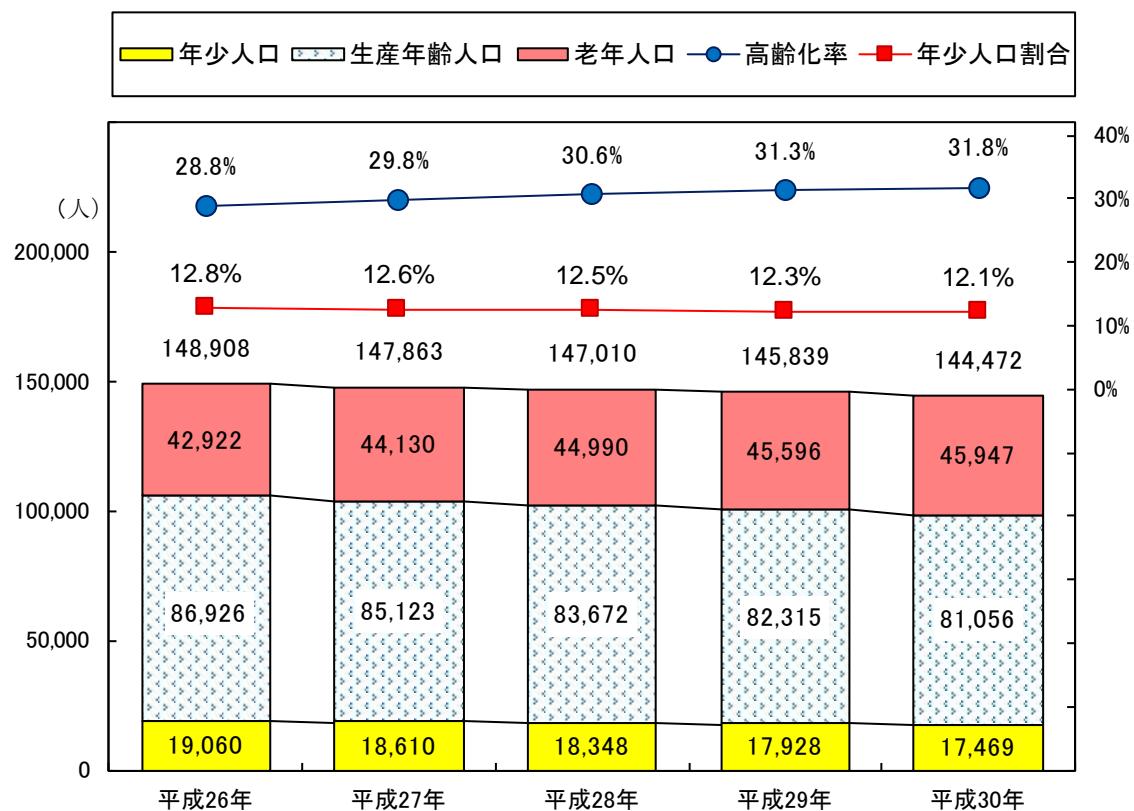
(1) 総人口及び年齢3区分別人口の推移

本市の総人口は年々減少しており、平成30年3月31日現在144,472人となっています。

年齢3区分別にみると、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）が減少を続けており、高齢者人口（65歳以上）は増加し続けていることから、少子高齢化が確実に進んでいる状況がうかがえます。

また、少子高齢化の進展に伴い、総人口に占める年少人口割合は低下、高齢化率は上昇を続けています。

■総人口及び年齢3区分別人口の推移

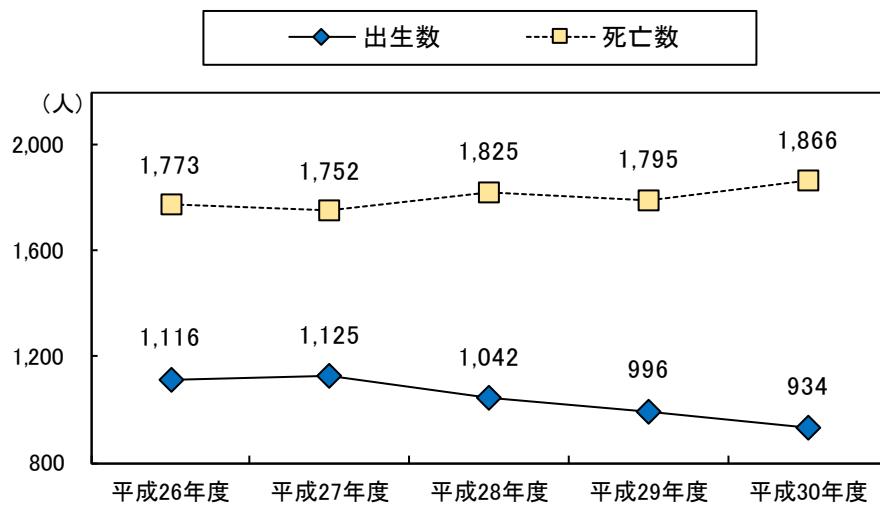


資料：周南市基礎データ（各年3月31日現在）

(2) 自然動態－出生数・死亡数の推移－

平成 26 年度以降の出生数、死亡数の推移は以下のとおりで、毎年、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。平成 30 年度は、出生数 934 人に対し死亡数 1,866 人で、932 人の自然減となっています。

■出生数と死亡数の推移



資料：周南市基礎データ

2 平均寿命と健康寿命

ここで言う健康寿命とは「日常生活動作が自立している期間の平均」のことです。平均寿命から介護が必要になる（介護保険の要介護度2～5）期間を差し引いた寿命のことです。

本市の平成27年の健康寿命は、男性で79.3歳、女性で83.8歳となっており、平均寿命と同様、女性の方が高くなっています。しかし、支援や介護が必要となる期間は、男性の1.1年に対し女性は2.8年と長くなっています。

なお、山口県の平均値と比較すると、男女ともに健康寿命は県平均と同水準ですが、支援や介護が必要となる期間は男女ともやや短くなっています。

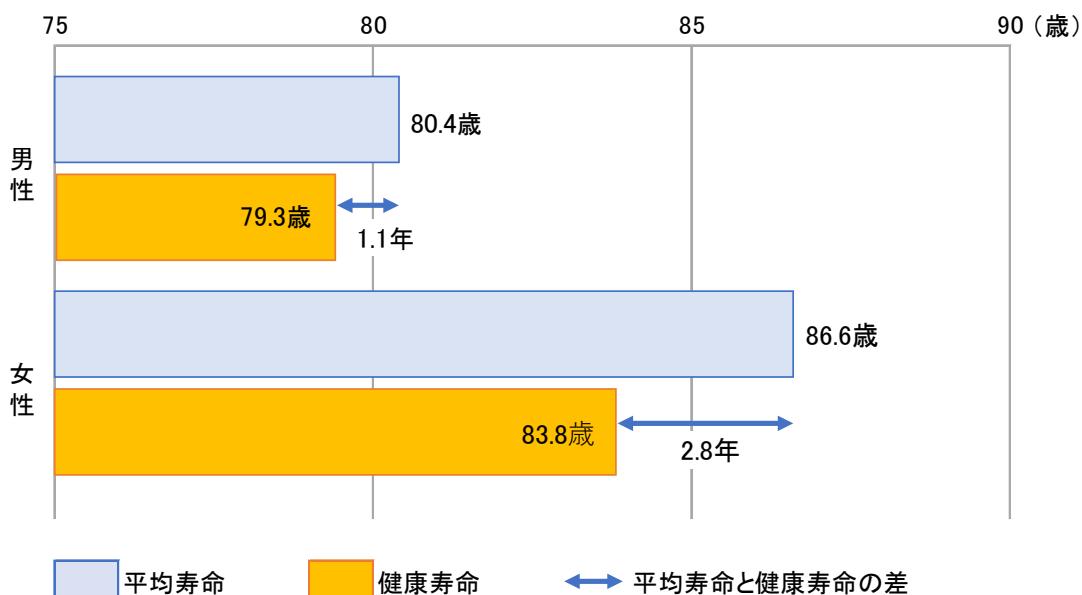
平均寿命と健康寿命

(単位：歳、年)

項目	区分	男性		女性	
		平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
平均寿命 (①)	周南市	78.9	80.4	86.0	86.6
	山口県	79.0	80.5	86.1	86.9
健康寿命 (②)	周南市	77.6	79.3	83.0	83.8
	山口県	77.7	79.2	83.0	83.8
支援や介護が必要となる期間 (①-②)	周南市	1.3	1.1	3.0	2.8
	山口県	1.3	1.3	3.1	3.1

資料：平均寿命は厚生労働省生命表、健康寿命は山口県健康福祉部健康増進課調べ

■周南市の平均寿命と健康寿命（平成27年）



3 死亡の状況

(1) 死因別死亡数・死亡率の年次推移

本市の死因別死亡数を見ると、悪性新生物によるものが最も多く、心疾患がそれに続いています。毎年度、この2つの疾患による死亡数が、全体の4割を超えています。

死因別死亡数・死亡率の推移

死 因	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	死 因	死亡数(人)						
		死亡率		死亡率		死亡率		死亡率
		(割合・%)		(割合・%)		(割合・%)		(割合・%)
総 数		1,733	悪性新生物	1,769		1,819		1,766
		1,181.6		1,233.6		1,259.4		1,301.8
		(-)		(-)		(-)		(-)
第1位	悪性新生物	458		497	悪性新生物	497	悪性新生物	459
		312.3		346.6		344.1		321.1
		(26.4)		(28.1)		(27.3)		(26.0)
第2位	心疾患	260	心疾患	278	心疾患	303	心疾患	302
		177.3		193.9		209.8		211.3
		(15.0)		(15.7)		(16.7)		(17.1)
第3位	脳血管疾患	192	肺炎	182	肺炎	178	脳血管疾患	167
		130.9		126.9		123.2		116.8
		(11.1)		(10.3)		(9.8)		(9.5)
第4位	肺炎	191	脳血管疾患	140	脳血管疾患	155	肺炎	162
		130.2		97.6		107.3		113.3
		(11.0)		(7.9)		(8.5)		(9.2)
第5位	老衰	125	老衰	125	老衰	131	老衰	127
		85.2		87.2		90.7		88.8
		(7.2)		(7.1)		(7.2)		(7.2)

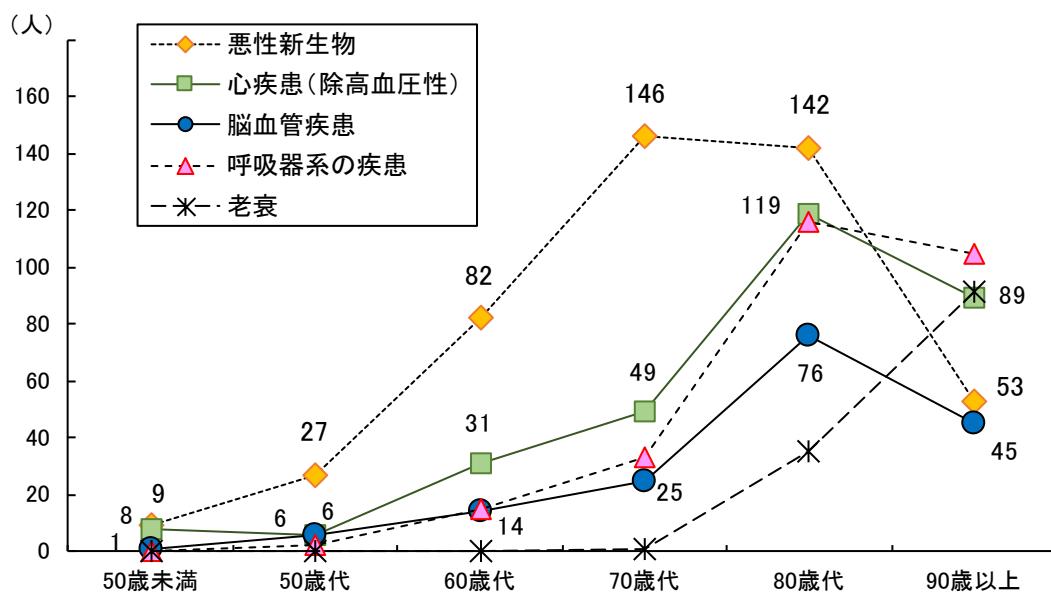
※死亡率：人口10万対死亡数

※資料：山口県「保健統計年報」人口動態[総覧]

(2) 死因別・年代別死亡数

本市の死亡数は 50 歳代から増え始めますが、悪性新生物を死因とするものが 50 歳代以降急激に増え、70 歳代でピークを迎えるのに対し、心疾患（高血圧性を除く）や脳血管疾患、呼吸器系の疾患有死因とするものは、60 歳代で増え始め、80 歳代が最も多くなっています。

■死因別・年代別死亡数（平成 29 年度）



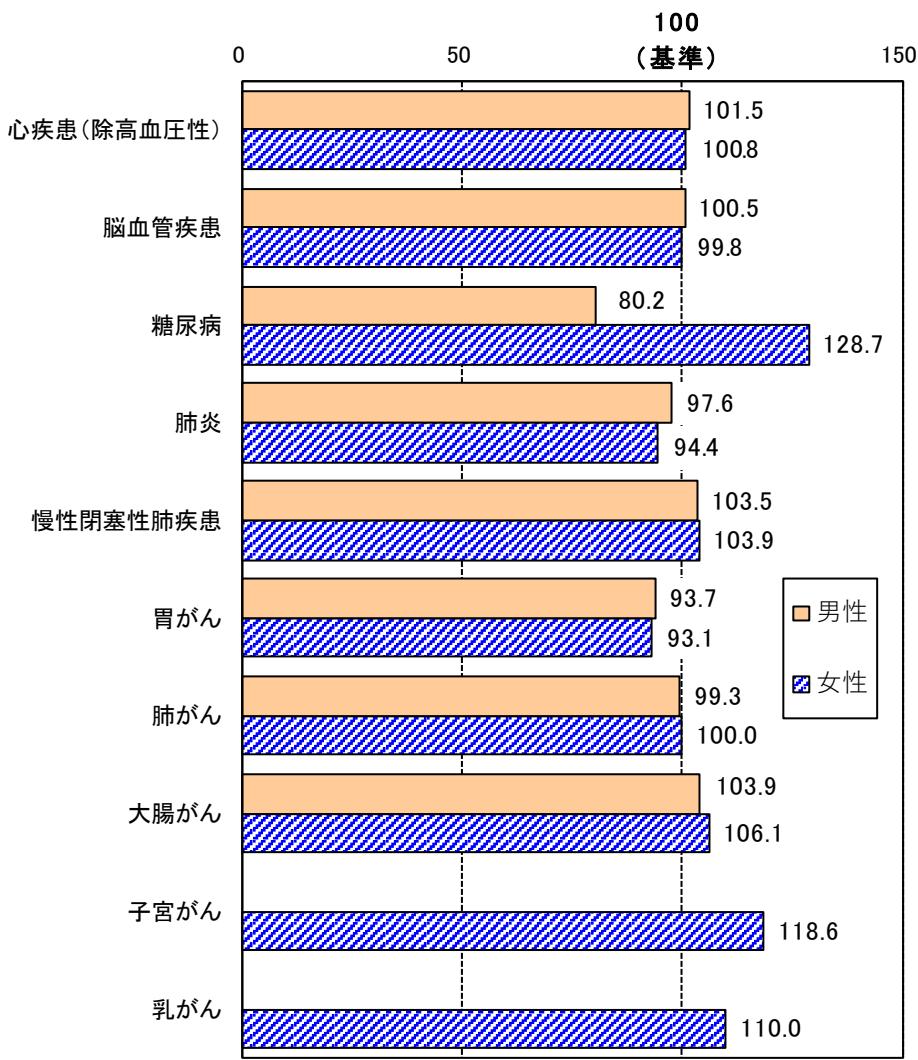
資料：山口県保健統計年報（平成29年度）

(3) 標準化死亡比（県との比較）

山口県全体を基準（100）とした場合の標準化死亡比を見ると、概ね県全体の傾向に近いことがわかります。

女性の糖尿病、子宮がん、乳がんの標準化死亡比がやや高くなっています。

■標準化死亡比（平成24～28年）



資料：やまぐち健康マップ(平成31年3月)

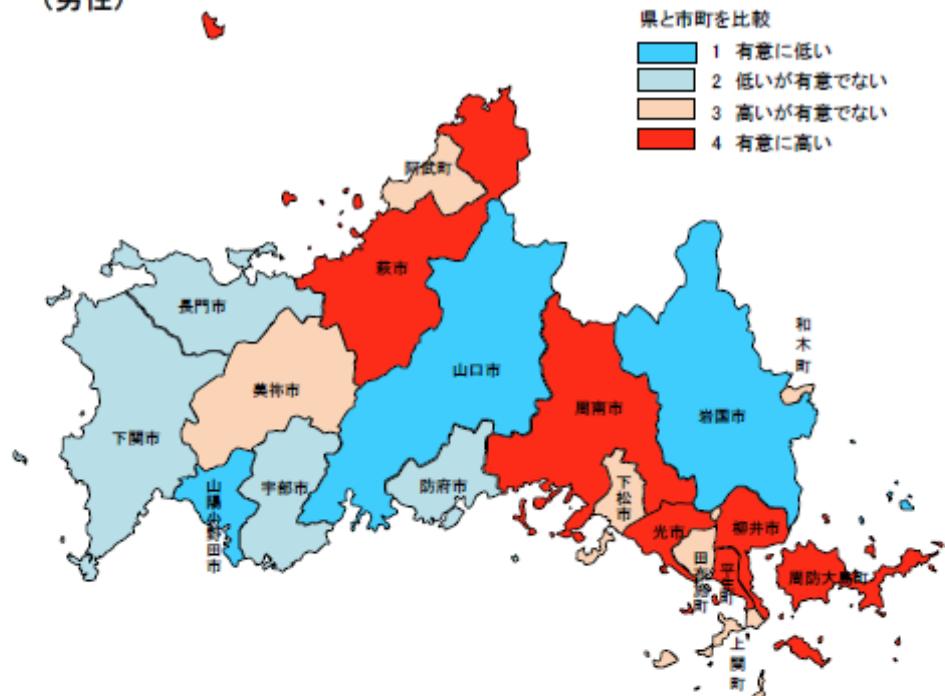
※標準化死亡比（SMR）：

年齢構成の異なる地域間で死亡状況を比較するために用いる指標で、年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した死亡数に対する現実の死亡数の比。

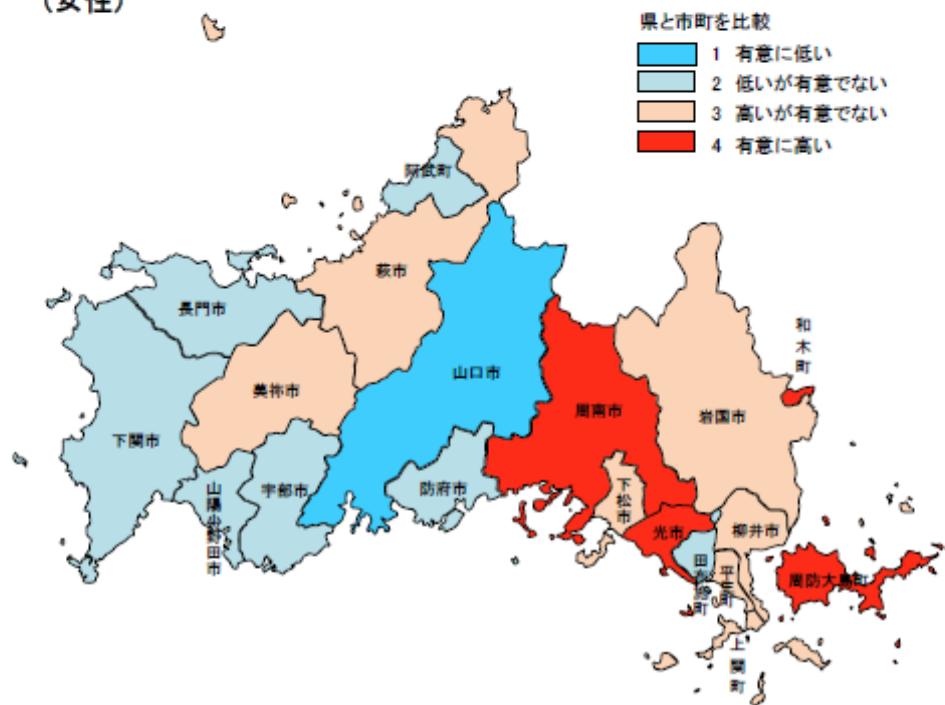
基準にしている山口県全体を SMR=100 とするため、SMR=110 の場合、死亡率が山口県全体（100）に比べて 1.1 倍高いことを表している。

■特定健康診査高血圧有所見者標準化該当比（平成 28 年）

(男性)



(女性)



資料: やまぐち健康マップ(平成 31 年 3 月)

※標準化該当比：

標準化死亡比の算定方法に準じて、年齢構成の異なる地域間で状況を比較するため、年齢構成の差異を基準の受診率・終了率・該当率で調整した受診者数・終了者数・該当者数に対する現実の受診者数・終了者数・該当者数の比。

なお、基準の受診率・終了率・該当率は山口県の年齢 5 歳階級別受診率・終了率・該当率とする。

(4) がんの部位別死亡数の推移

本市のがんを死因とする死亡数を部位別に見ると、男性は肺が最も多く、胃、大腸と続いており、女性は大腸が最も多く、肺、胃と続いています。

がんの部位別死亡数の推移 (単位:人)

性別	部位	平成26年	平成27年	平成28年
男性	全数	248	279	312
	肺	59	70	72
	胃	36	39	32
	大腸	33	34	30
	肝臓	21	22	26
	脾臓	19	17	23
	食道	11	9	15
	その他	69	88	114
女性	全数	210	218	185
	肺	31	27	24
	胃	15	27	21
	大腸	32	34	31
	肝臓	7	7	13
	脾臓	26	24	12
	食道	2	4	1
	乳	18	18	18
	子宮	13	8	10
	その他	66	69	55

資料:やまぐち健康マップ(平成31年3月)

4 がん検診・特定健康診査等の状況

(1) がん検診の受診状況

本市における各種がん検診の受診率を国や県と比較すると、乳がん検診は県の受診率を上回っているものの、国の受診率は下回っており、それ以外のがん検診についてはすべて国・県の数字を下回っています。

平成29年度がん検診受診率(40～69歳)の比較 (単位:%)

種 別	国	県	周南市
胃がん	8.4	5.7	2.1
肺がん	7.4	4.8	4.1
大腸がん	8.4	5.2	4.4
子宮がん	16.3	16.7	13.3
乳がん	17.4	13.9	15.3

資料:地域保健・健康増進事業報告

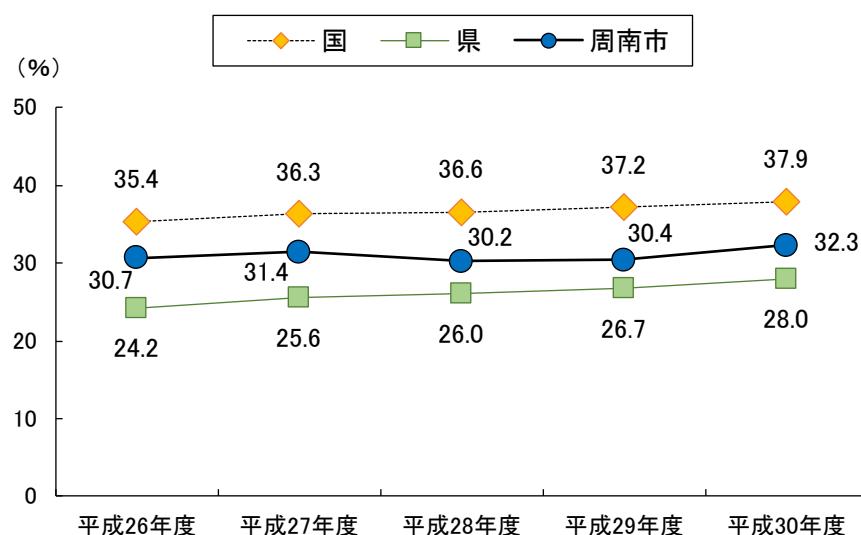
※この報告は、健康増進法によるがん検診の受診者の報告であり、職場における労働安全衛生法等の検診受診者の数は含まれていません。

(2) 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

本市の国民健康保険被保険者を対象とする特定健康診査の受診率は、毎年度 30% 超で横ばい状態が続いており、県の受診率は上回っていますが、国の受診率は下回っています。

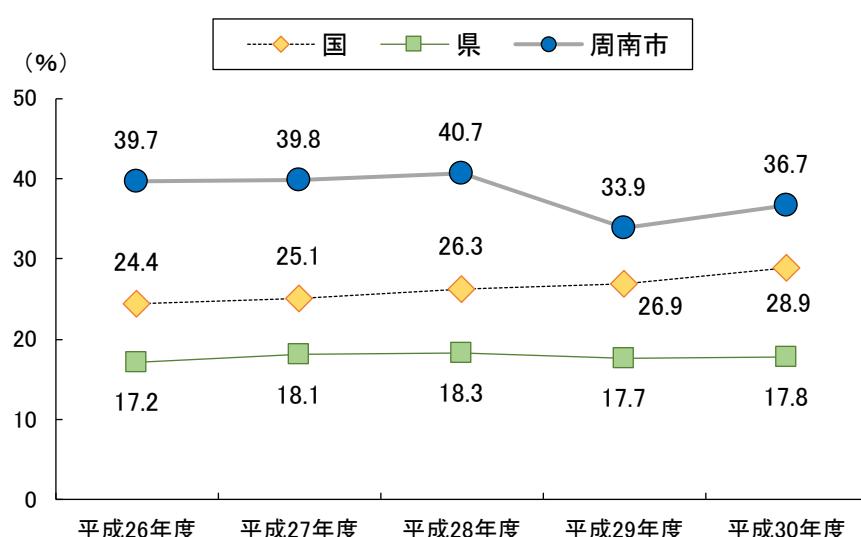
一方、本市の特定保健指導の実施率は、平成 28 年度から 29 年度にかけて 6.8 ポイント低くなりましたが、医療機関への委託や市の保健師、管理栄養士による個別訪問等により、国や県の指導率を上回って推移しています。

■特定健康診査受診率の年次推移



資料:特定健康診査・特定保健指導実施結果

■特定保健指導実施率の年次推移

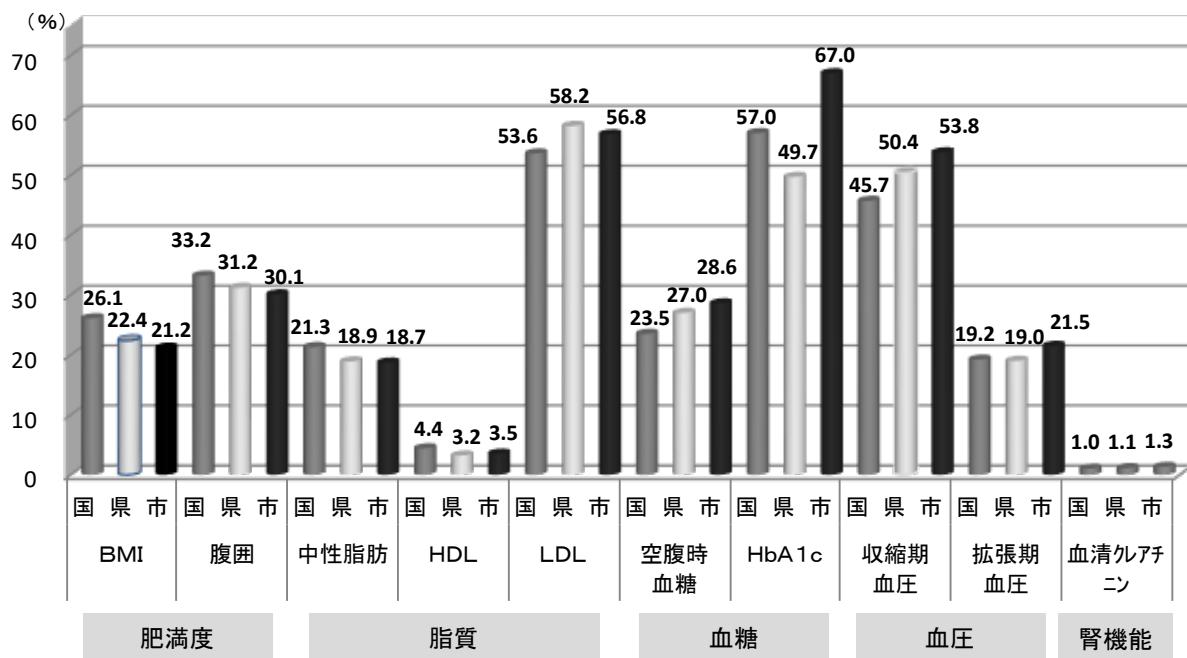


資料:特定健康診査・特定保健指導実施結果

(3) 特定健康診査の結果（国・県との比較）

平成30年度における本市の特定健康診査の結果を見ると、BMI・腹囲・中性脂肪の有所見者の割合は国、県に比べ低くなっていますが、血糖、HbA1c、血圧の有所見者割合は国、県よりも高くなっています。

■特定健康診査有所見者（保健指導域以上）の割合比較



資料：平成30年度特定健康診査結果 KDB

(4) 妊婦・乳幼児健康診査の受診状況

本市の妊婦・乳幼児健康診査の受診率の推移は以下のとおりで、いずれも横ばい傾向にあります。

妊婦・乳幼児健康診査受診率の推移

(単位: %)

種 別	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
妊婦健康診査	98.9	100.4	99.7	99.3	100.7
1か月児健康診査	98.1	99.2	99.6	100.0	96.8
3か月児健康診査	99.4	100.0	100.0	100.0	97.9
7か月児健康診査	98.2	98.5	100.0	100.0	99.4
1歳6か月児健康診査	97.7	99.3	100.0	99.2	98.7
3歳児健康診査	98.0	98.0	98.0	98.7	97.9

*妊婦健康診査の受診率が100%を超えてるのは、転入等により、妊娠届出者と受診者が必ずしも一致しないため

資料: 山口県の母子保健

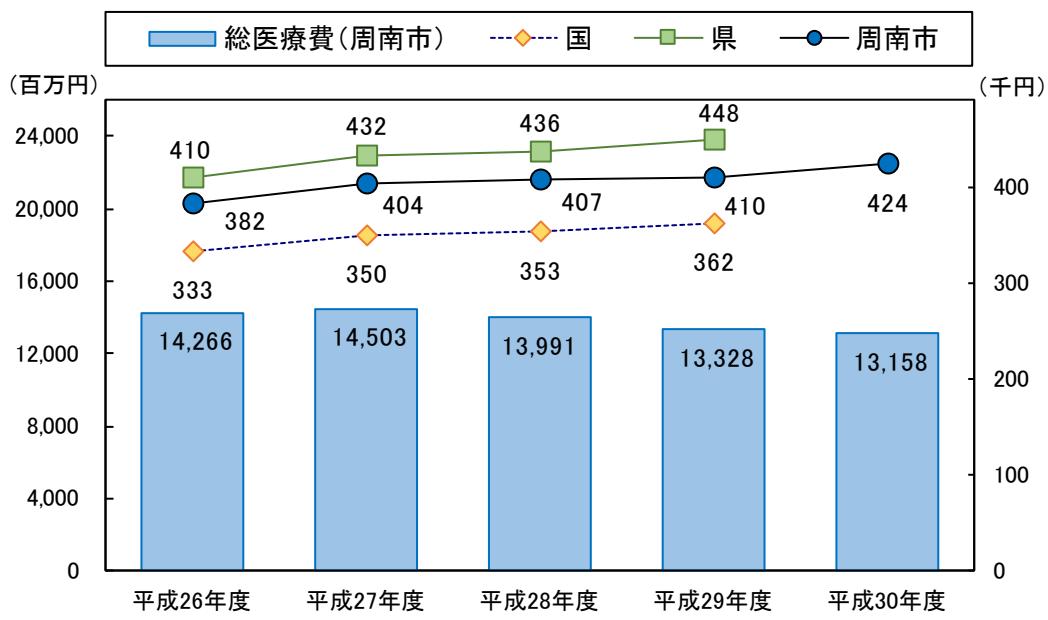
5 国民健康保険の医療費の状況

本市の国民健康保険の総医療費は、被保険者数の減少に伴い減少傾向にあり、平成30年度は約131億円となっています。

一方、一人当たりの医療費は少しずつ増加する傾向にあり、平成29年度は約41万円となっています。これは、全国平均よりは高く、県平均よりは低い状況です。

また、本市の国保医療費のほぼ4割を、メタボリックシンドローム等に起因する生活習慣病にかかる医療費が占めています。

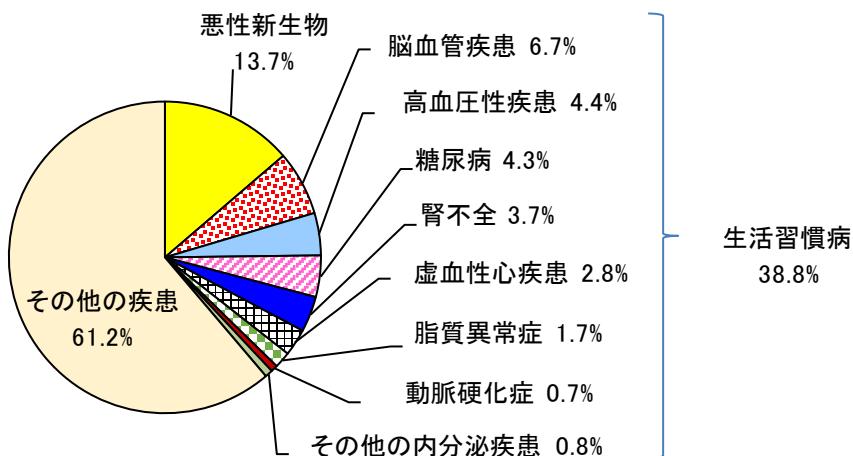
■総医療費と一人当たり医療費（国・県・周南市）の推移



※医療費:療養諸費 全体分:一般+退職

資料:周南市の国保 国民健康保険事業年報

■疾患別周南市国民健康保険医療費割合（平成30年5月診療分）



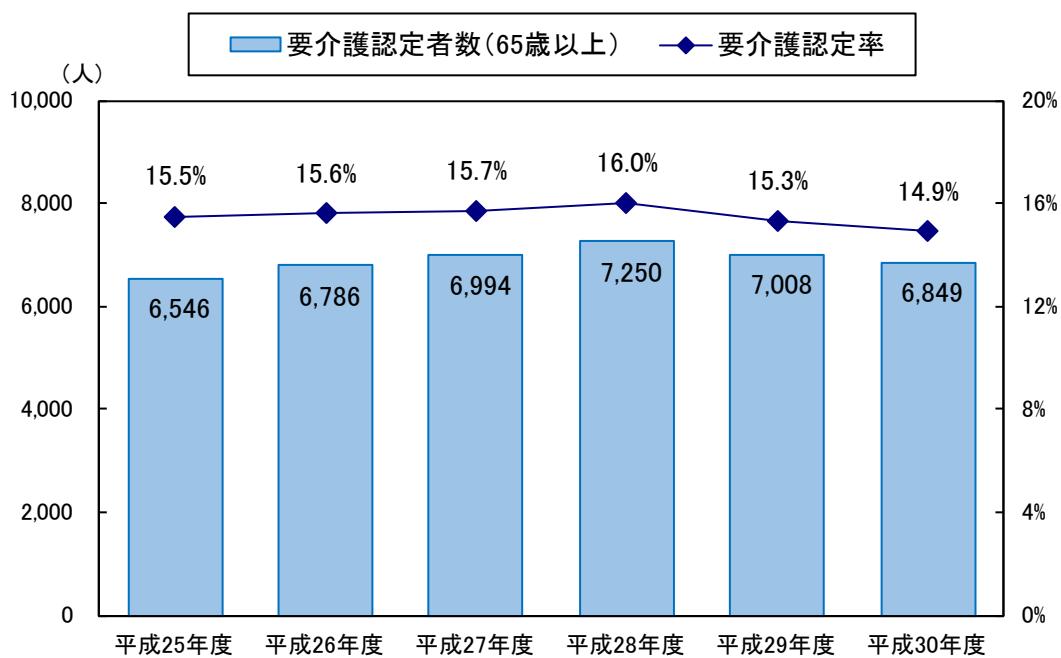
資料:周南市の国保 国民健康保険事業年報

6 介護保険における要介護認定の状況

本市の介護保険における 65 歳以上の要介護認定者数は、平成 28 年度をピークに、その後減少に転じており、平成 30 年度は 6,849 人となっています。

また、要介護認定率（高齢者人口に占める 65 歳以上の要介護認定者数の割合）も、平成 28 年度の 16.0% をピークに、その後減少に転じており、平成 30 年度は 14.9% となっています。

■65 歳以上の要介護認定者数及び要介護認定率の推移



※各年度9月末現在の人数

資料:周南市介護保険事業報告

7 周南市健康づくり計画（平成 28 年度～平成 31 年度）の取組と評価

（1）主な取組の状況

前計画期間中は、企業、事業所、関係団体等と連携し、いつでも どこでも 誰でも 気軽に取り組める健康づくり「しゅうなんスマートライフチャレンジ」に取り組みました。参加者数は年々増加傾向にあり、平成 30 年度は以下の 9 つのチャレンジに合わせて約 5,000 人が参加し、協賛事業者数も 134 団体に増えています。

チャレンジ名	概 要	参加状況（平成 30 年度）
こども あさご はん ちゃれん じ	子ども（主に年長児）が、三色食品群を用いて栄養バランスのとれた朝食を摂ることができたらチャレンジカードにシールを貼ることに 1 週間取り組む（幼稚園、保育所等を通じて実施）。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全園が参加 ・参加者数 1,440 人
サンサンチャレ ンジ	3 か月で 3 kg の減量を目指して朝・晩 2 回の体重グラフを続けることで健康づくりに取り組む肥満予防プログラム。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 205 人 ・参加者の 7 割が働き世代
チャレンジウォ ーキング	健康づくりのためのウォーキング実施への動機づけと継続への強化を図るため、好きな場所を歩いて歩数を記録し、事前に自分が決めた目標達成をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 903 人 ・登録グループ数 120 ・参加者の 7 割が働き世代
お腹ぺったんこ チャレンジ	運動習慣獲得の必要性に気付くためのチャレンジで、自分で運動内容を決め 1 か月間継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 109 人 ・参加者の 7 割が働き世代
いきいき 100 歳 チャレンジ	介護予防を目的に、65 歳以上の人を中心とした 5 人以上のグループが住民主体で週 1 回いきいき百歳体操に取り組む。（住民運営通いの場）	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 1,376 人 ・登録グループ数 100
禁煙チャレンジ	毎日禁煙カレンダーにチェックをしながら 3 か月間禁煙に取り組む。チャレンジ中は定期的に保健師が応援メールを送付。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 8 人
デビュ友検診	身近な人を誘って「検診デビュー」が成立した 2 人又は 3 人組に、市内共通商品券 500 円分をそれぞれにプレゼント。	<ul style="list-style-type: none"> ・申請者数 2 組（4 人）
歩こう！階段チ ャレンジ	「階段」の利用促進とその必要性や効果を啓発し生活習慣病対策として身体活動・運動についての意識の向上及び日常生活における実践を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加施設数 58 施設
はみがきチャレ ンジ	子どもの歯磨き習慣と、保護者の仕上げ磨き習慣の確立を目指し、主に年長児が家庭や園で歯みがきと保護者による仕上げ磨きをすることができたらチャレンジカードにシールを貼ることに 2 週間取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 46 園中 34 園が参加 ・参加者数 935 人

(2) 評価指標の検証

前計画で設定した健康づくり8分野ごとの評価指標にかかる基準値と現状値の比較結果は以下のとおりです。

なお、表中の「傾向」欄は、「↑」：基準値から2ポイント以上改善、「→」：横ばい、「↓」：2ポイント以上悪化で表示します。

1. 栄養・食生活					
指 標	対 象	基準値 (平成25年度)	現状値 (令和元年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
1日1回は家族と一緒に食べる子供の割合	年長児	96.3%	97.3%	→	100.0%
	小学生	92.7%	87.7%	↓	95.0%
	中学生	85.5%	84.6%	→	
毎食（3食）野菜を食べている人の割合	年長児	63.5%	64.5%	→	80.0%
	小学生	66.6%	65.2%	→	
	中学生	65.7%	61.8%	↓	
	市 民	68.1%	66.1%	↓	
栄養バランスに配慮した食生活を送っている人の割合	小学生	41.7%	51.3%	↑	60.0%
	中学生	42.1%	50.9%	↑	
	市 民	39.2%	39.4%	→	
「塩分の多い料理を控えること」をいつも心がけている人の割合	20歳～79歳	28.3%	29.0%	→	30.0%
2. 身体活動・運動					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成29年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
1日30分以上の軽く汗をかく運動を週に2回以上、1年以上実施している人の割合	20歳～79歳	31.4%	30.0% (令和元年度)	→	50.0%
普段の生活の中で、エレベーター等を使わず、階段を使うようにしている人の割合	20歳～79歳	55.6%	69.1%	↑	70.0%
しゅうなんチャレンジウォーキングの参加者数	市民、市内に勤務する人	679人	903人 (平成30年度)	↑	1,000人
3. こころの元気と休養					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成29年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
睡眠による休養が十分に取れている人の割合	特定健康診査受診者	77.0%	76.6% (平成30年度)	→	85.0%
自殺死亡率（人口10万人対）	市民	15.4	18.5	↓	10
ゲートキーパー研修会の参加者数	民生委員等の地区組織・団体、市民	累計197人 (H22～26)	累計525人 (H27～30)	↑	累計400人

指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成29年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
「育児が楽しい」と感じる人の割合	3か月児健康診査受診児の保護者	88.5%			95.0%
エジンバラ産後うつ質問票9点以上の割合	乳児全戸訪問	9.8%	7.3%	↑	減らす
4. 歯・口腔					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成29年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
う歯罹患者率	3歳児	23.0%	16.1%	↑	20.0%
一人平均う歯数	12歳児	0.63歯	0.53歯 (平成30年度)	↑	0.5歯以下
いい歯スマイル検診受診者数	19歳～39歳	720人	811人 (平成30年度)	↑	1,000人
過去1年間に歯科検診を受診した人の割合	20歳～79歳	44.5%	53.1% (令和元年度)	↑	65.5%
5. たばこ・飲酒					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成29年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
習慣的に喫煙している人の割合	20歳～79歳 (男性)	27.0%	26.3% (令和元年度)	→	20.0%
	20歳～79歳 (女性)	7.2%	8.2% (令和元年度)	→	5.0%
妊婦で喫煙している人の割合	妊娠届提出者	4.5%	13.2%	↓	減らす
産婦の家族で、喫煙している人の割合 ※現状値は3か月児健診の問診結果	乳児全戸訪問実施者	41.1%	34.3%	↑	30.0%
「節度ある適度な飲酒量」を知っている人の割合	20歳～79歳	61.2%	49.3% (令和元年度)	↓	80.0%
6. 健康管理					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
大腸がん検診受診率※ ※現状値は40～79歳	40～74歳	14.8%	6.8%	↓	20.0%
肺がん検診受診率※ ※現状値は40～79歳	40～74歳	16.7%	7.2%	↓	20.0%
特定健康診査受診率	国民健康保険被保険者 (40歳～74歳)	30.7%	30.4%	→	60.0%

※この受診率は、健康増進法によるがん検診の受診者数に基づくもので、職場における労働安全衛生法等の検診受診者の数は含まれていません。

6. 健康管理					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率	特定健康診査受診者	23.1%	20.4%	↓	25.0%
メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事、運動などを継続的に実践している人の割合	市民	22.0%	20.8% (令和元年度)	→	50.0%
7. 次世代の健康					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
妊婦健康診査受診率	妊婦	98.9%	100.7%*	→	99.0%
低出生体重児（2,500g未満）の出生割合	出生時体重 2,500g未満 の児	9.5%	8.6% (平成29年度)	→	減らす
乳幼児健康診査受診率 (※基準値は平成25年度実績)	1か月児	97.6%	96.8%	→	99.0%
	3か月児	97.3%	97.9%	→	99.0%
	7か月児	98.8%	99.4%	→	99.0%
	1歳6か月児	99.4%	98.7%	→	100.0%
	3歳児	97.7%	97.9%	→	99.0%
毎日朝食をとっている子どもの割合	小学5年生	90.5%			95.0%
	中学2年生	89.8%			
放課後や休日に外遊びが少ない又はどちらかといえば少ないと回答した子どもの割合	小学5年生	44.7%			減らす
	中学2年生	40.7%			
8. 高齢者の健康					
指 標	対 象	基準値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
いきいき百歳体操に取り組む通いの場の数（週1回以上）	概ね 65歳以上	2か所	100か所	↑	累計100か所
認知症サポーター養成講座受講者数	市民	7,479人	13,338人	↑	累計14,000人
高齢者の主観的健康感について「とても健康」「まあまあ健康」と回答した人の割合	65歳以上	72.4%	81.2% (令和元年度)	↑	80.0%
60歳以上で働いている、ボランティア活動を行っている、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っている者の割合	60歳～70歳	74.6%	81.7% (平成29年度)	↑	80.0%

*妊婦健康診査の受診率が100%を超えてるのは、転入等により、妊娠届出者と受診者が必ずしも一致しないため

8 第2次周南市食育推進計画の取組と評価

(1) 主な取組の状況

第2次計画期間中は、食を考え、楽しむ力をもつひとづくり、食育を支える人々の絆で、元気で歓びと感謝に満ちたまちづくりをめざし、「豊かに食べて みんな幸せ」を基本理念に、以下の3つの力づくりに取り組みました。

楽しむ 力づくり	<p>食べ物に興味をもって料理をつくり、家族や仲間と一緒に食事をすることは、生活を楽しむこと。こうした日々を楽しむ力を自ら身に付けられるよう、子どもたちに伝えていく。</p> <p>*家族や仲間との共食 *食の楽しさを知る *食育体験をする</p>
元気の 力づくり	<p>「体と心は食べたものでできている」と言われるよう、規則正しく、栄養バランスの整った適切な食事は、心身の健康にとって大変重要。</p> <p>また、いつまでもおいしく食べられるよう、口の健康にも気を付ける。</p> <p>*栄養バランスを整える（朝食・野菜） *生活習慣病の予防・改善 *よく噛んで食べる</p>
つながる力 づくり	<p>食べ物の命や携わる人への感謝の心や食事のマナー、郷土の食材を使った料理など、日本の食文化を守り伝えることで、郷土愛のある人を育む。</p> <p>またそのために、みんなでつながり協力して食育体験を支援するまちづくりを進める。</p> <p>*食事マナーを身に付ける *感謝の心をもつ *食文化の継承（行事食・郷土料理・日本型食生活など） *地産地消の推進 *食の安全に关心をもつ *食べ残しを減らす *食育体験活動の支援 *ネットワーク</p>

具体的な取組のうち、主なものは以下のとおりです。

① 園児のための食育講座～海の恵み編～	
目的	幼児期の子どもが、食べ物や生産者、料理を作ってくれた人への感謝の気持ちを持ち、食べることへの関心を高め、食を大切にする心を育む。また、家庭、保育所、地域、行政等が連携し、協働する仕組みづくりやひとつづくりを行う。
対象	年長児（園単位で実施）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・周南の海でとれる「たこ」の特性やたこ漁を漁師さんから学ぶ。 ・生きている「たこ」を見て、触って、観察することを通して、命を感じる。 ・調理や食事を通して、食材や生産者、調理をしてくれる人への感謝の気持ちを育む。 ・「チャレンジカード」を園を通して家庭に配付し、食育の目標（食事の時のあいさつ、共食）に親子で取り組む。
状況	平成30年度実施園数6園、参加者数79人

② こども あさごはん ちゃれんじ	
目的	子どもが三色食品群について学び、栄養バランスのとれた食事をとるという望ましい食習慣を身に付ける。
対象	年長児（園単位で実施）※年中児の参加も可
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園、または園と健康づくり推進課が事前に園児に三色食品群についての健康教育を実施 ・園が給食やお弁当などをを利用して、三色食品群について継続的に復習を実施 ・家庭で園児が三色食品群のそろった朝食を食べることに1週間チャレンジ
状況	平成30年度参加園数46園、参加者数1,440人
③ 栄養バランス料理教室	
目的	子育て世代の市民が栄養バランス、食事量及び味付けの目安を理解し、子どもや家族の健康づくりのための食育を実践できるようにする。
対象	「こども あさごはん ちゃれんじ」に参加した園の保護者
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「元気な子どもを育てる食育」 ・調理実習
状況	平成30年度実施園数3園、参加者数23人
④ 野菜メニューコンクール	
目的	小中学生が地産の野菜を使った料理を考え調理し、家族や仲間と一緒に食べることで野菜や料理に興味関心を持ち、家庭での食育につなげる。
対象	市内の小学1年生～中学3年生
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地産（周南市産、山口県産）の野菜を使った「家族と一緒に食べたい！いちおし！野菜メニュー」の募集と地域への情報発信
状況	平成30年度応募者数2,438人、39校からの応募
⑤ マタニティママの健康講座	
目的	妊婦が、望ましい食生活の確立と歯科保健行動の定着に向け、自分と家族の健康づくりに対する関心や理解を高め、実践できるようにする。
対象	妊婦（経産婦も可）及びその家族
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「マイナス1歳からのむし歯予防」「毎日の食事のポイント」 ・試食「体が喜ぶ野菜料理とおやつ」 ・個別相談
状況	平成30年度6回開催、参加者数52人

(6) 食生活改善推進員養成講座	
目的	食を通じた健康づくりに関する知識と技術を習得し、地域住民の健康の保持増進に寄与する食生活改善推進員を養成する。
対象	周南市民
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全5回の講座を開催 食生活改善推進員活動、健康日本21、生活習慣病予防、食品衛生、食育、調理実習、健康づくりと身体活動など
状況	平成30年度修了者37人

(7) 食育に関する出前トーク	
目的	しゅうなん出前トークの講座の中で食育に関する出前トークを実施することで、周南市の食育及び食を通じた健康づくりを進める。
対象	周南市民
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講座 「生活習慣病予防のための食事」「生活習慣病の予防について」「乳幼児期の食育」
状況	平成30年度72回開催、参加者数1,720人

(8) 食生活改善推進員活動（食生活改善推進協議会に委託）	
目的	地域住民の肥満・貧血・高血圧・骨粗鬆症・糖尿病などの食生活と密接な関係がある生活習慣病を予防し、健康づくりを積極的に進めていくため、自主的に食生活改善を中心とした普及啓発活動を推進する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善事業業務 健康料理教室、男性健康料理教室、小学生健康料理教室、親子健康料理教室、幼稚園健康料理教室、母推サークル活動、中学生健康料理教室、食育の日・食育月間PR <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり事業援助業務 はじめての離乳食セミナー、マタニティママの健康講座、園児のための食育講座、食生活改善推進員養成講座等の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進協議会運営業務 総会、役員会、研修会の開催及び県主催の研修会参加
状況	平成30年度食生活改善推進員数168人

(2) 目標指標の検証

第2次計画で設定した目標指標の基準値と現状値の比較結果は以下のとおりです。

なお、表中の「傾向」欄は、「↑」：基準値から2ポイント以上改善、「→」：横ばい、「↓」：2ポイント以上悪化で表示します。

基本方針	指標項目			基準値 (平成25年度)	現状値 (令和元年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
楽しむ力	1 1日1回は家族と一緒に食事を食べる子どもの割合	年長児	96.3%	97.3%	→	100%	
		小学生	92.7%	87.7%	↓	95%以上	
		中学生	85.5%	84.6%	→	90%以上	
元気の力	2 家族や仲間と楽しく食事をする人の割合	市民	79.5%	73.6%	↓	80%	
元気の力	3 朝食を食べていない人の割合	年長児	0.7%	0.7%	→	0%	
		小学生	0.7%	1.0%	→		
		中学生	2.5%	2.0%	→		
		男性	20歳代	17.8%	16.7%	→	15%以下
		女性	30歳代	11.2%	13.3%	↓	10%以下
		女性	20歳代	17.9%	12.9%	↑	7%以下
	4 毎食（3食）野菜を食べている人の割合	30歳代	6.9%	7.1%	→	5%以下	
		年長児	63.5%	64.5%	→	80%以上	
		小学生	66.6%	65.2%	→		
		中学生	65.7%	61.8%	↓		
		市民	68.1%	66.1%	↓		
元気の力	5 栄養バランスに配慮した食生活を送っている人の割合	小学生	41.7%	51.3%	↑	60%以上	
		中学生	42.1%	50.9%	↑		
		市民	39.2%	39.4%	→		
元気の力	6 よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心があり、実践している人の割合	年長児	67.3%	46.1%	↓	80%以上	
		小学生	41.0%	44.4%	↑		
		中学生	40.7%	43.0%	↑		
		市民	34.3%	34.9%	→		
元気の力	7 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を認知している人の割合	市民	81.7%	77.9%	↓	100%	
元気の力	8 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動などを継続的に実践している人の割合	市民	22.0%	20.8%	→	50%以上	
元気の力	9 「食育」のしゅうなん出前トークの実施回数	実施回数	延べ127回	延べ351回	↑	延べ240回	

基本方針	指標項目			基準値 (平成25年度)	現状値 (令和元年度)	傾向	目標値 (令和元年度)
つながる力	10 食事の時にあいさつをする子どもの割合	年長児	73.0%	72.8%	➡	100%	
		小学生	74.0%	72.8%	➡		
		中学生	64.4%	74.7%	↑		
	11 伝統的な行事食や郷土料理を知っている人の割合	市民	74.7%	78.9%	↑	80%以上	
	12 「食育」の言葉も内容も知っている人の割合	小学生	24.9%	18.9%	↓	100%	
		中学生	23.6%	24.9%	➡		
		市民	55.7%	60.3%	↑	90%以上	
	13 農林漁業等の体験活動を実施している小中学校	実施学校	46校	全校	↑	全校	
	14 学校給食における地場産（県内産）食材の使用割合	使用割合	60.0%	68.8%	↑	60%以上	
	15 食べ残し（食べ物の廃棄）をなくすようにしている人の割合	小学生	60.7%	54.6%	↓	90%以上	
		中学生	69.9%	70.0%	➡		
		市民	82.3%	83.1%	➡		
	16 「食」の安全について関心のある人の割合	小学生	39.4%	55.0%	↑	90%以上	
		中学生	39.0%	45.4%	↑		
		市民	71.7%	66.9%	↓		